

玉泉南澗花奇怪不
 是似花叢似火堆今日
 多情只我到 每年
 寧辭一幸苦行三
 里更與酒連飲
 盃粉一之一般孤
 早夏日初長南風
 草木香肩興頗平
 徑澗路甚清涼紫
 藤行看採玉梅
 柱橋多瘴
 飢兼解渴一盞
 冷雲漿
 宿天竺寺廻
 野寺經三宿都城
 復一還家仍念

玉泉南澗花奇怪不
 是似花叢似火堆今日
 多情只我到 每年
 寧辭一幸苦行三
 里更與酒連飲
 盃粉一之一般孤
 早夏日初長南風
 草木香肩興頗平
 徑澗路甚清涼紫
 藤行看採玉梅
 柱橋多瘴
 飢兼解渴一盞
 冷雲漿
 宿天竺寺廻
 野寺經三宿都城
 復一還家仍念

9 玉泉帖 小野道風

紙本墨書 総二九・五×二四五・六
平安時代、十世紀

一幅(三の丸尚藏館)

三跡の一人である小野道風(八九四〜九六六)の書。白居易(七七二〜八四六)の詩集『白氏文集』に収められている漢詩のうち、四首の詩を書いたもの的一部。「玉泉帖」という名称は、冒頭に「玉泉南澗花奇怪…」とあることによる。

〔屏風土代〕と比べて変化に富んだ印象を与え、特に字の大きさに大胆な変化が見られる。また、墨の潤濁や線の太さにも変化が見られ、大きな字は速度をもった書きぶり、〔渴〕の要素も生かした力強さを感じさせる。卷末に道風自身による「通常書く書体ではないので、これを見て評価をしないでほしい」といった内容の書き付けがあり、確かに変化に富んではいるものの、無理のない筆の運びで書かれており、熟練した技術が感じられる。

小野道風は、小野葛絃の子として寛平六年に生まれる。兄は藤原純友の乱鎮圧に活躍した小野好古で、祖父は小野篁。小野妹子は祖先にあたる。若い時から書の方面では名声が高く、醍醐天皇は延長五年(九二七)、唐に向かう僧の寛建に道風の書を持たせたほどである。大嘗会悠紀・主基屏風に書かれる色紙形の清書を朱雀天皇、村上天皇の二代にわたって務めた他、内裏の額の揮毫も命ぜられており、当代を代表する書家が担う大役を果たした。晩年には王羲之の再生とまで称賛され、康保三年十二月二十七日、七十三歳で死去した。道風の筆跡は「野跡」と言われ、尊ばれた。明治十一年(一八七八)近衛家より献上。

玉泉南澗花奇怪不
是似花叢似火堆今日

多情只我到每年

無故為誰開

寧辭辛苦行三

里更與酒連飲兩

盃猶有一般孤

負事不將歌

舞管絃

來

早夏遊平泉廻

早夏日初長南風

草木香肩興頗平

徑澗路甚清涼紫

藤行看採青梅

旋摘嘗漿

飢兼解渴一盞

冷雲漿

宿天竺寺廻

野寺經三宿都城

復一還家仍念

婚嫁身尚繫官

斑簫灑秋臨水

沈吟晚下山

長閑猶未得

遂日獻長句

侍中晋公欲到

東洛先蒙書

問期宿龍門思往

感今輒獻長句

昔蒙興化池亭

送今許龍門潭

上期聚散但慙

長見念榮枯

安敢道相思功成

名遂來已久

臥雲山游去未

遲聞說風情与筋

力只如初破茶

州時

以是不可為褒貶、緣非例

体耳、

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

書の美、文字の巧

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 74

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

宮内庁書陵部

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年九月十七日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan
The Archives and Mausolea Department
Imperial Household Agency